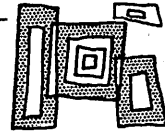


体外受精・胚移植にまつわる所感



杏林大学医学部付属病院 産婦人科病棟婦長 押山 トシ子



生殖医学の最近の進歩は、目を見張るものがあります。生殖医学の中でも特に新しいバイオテクノロジーの臨床への応用が「倫理」の問題としてクローズアップされ注目されているのは周知の通りです。

このような中であっても様々な問題を抱えたまま現場では動いているのです。

私共の臨床でも、不妊症治療の重要な柱となっている体外受精、胚移植が行われて一年が経過しました。体外受精、胚移植は、対象に負担のかかりにくい簡便な方法になりつつあり、その成功率は着実に上昇しています。そしてより生理的な方法も考え出されてきています。しかし、看護をする側にあっては、医学技術の進歩が先行し、後追いしているにすぎない感があります。看護する側の戸惑いがあることも正直なところ否認しません。

助産婦の看護の対象は広く、思春期から更年期をも含まれていますが、多くの助産婦は妊娠がわかった婦人、つまり妊婦さんから看護の対象にしているのが現実でしょう。妊娠していない人を看護の対象とすることが少なかった多くの助産婦、看護婦は、「何がなんでも妊娠したい人」つまりここでは体外受精・胚移植を希望する人の気持ちを押し測ることが難しいかのように見えます。看護をする側の価値観、「何もそうまでして妊娠したいと思わなくても」という価値観が「何がなんでも妊娠したい」という人と対立することが戸惑いとなるのかも知れません。患者さん

を理解しようとするほど、看護をする側はあたかも対決をせまられているかのようです。体外受精、胚移植を目的に入院した患者さんを受け持ち、必要な処置はできても、入院にいたるまでの様々な患者さんの苦悩を理解することは大変難しいようです。

私達が行った調査で『医療従事者に望むこと』では「こうまでしても（体外受精、胚移植をしても）赤ちゃんが欲しいということを知って欲しい」という回答が少なくありませんでした。

不妊症治療がさかんになって10年が経過しています。この10年間、いやそれよりも以前から不妊症の治療を続けてきた現在42才の患者さんが言います。「こんなに治療が進歩して嬉しい。もっと前にこの治療（体外受精、胚移植）があればもっと良かったけどまだ間に合う。こういう時代に生きることが嬉しい。望みがある」と。

この一年、試行錯誤を続け不妊症治療を受ける患者さんの看護を模索してきました。結論らしい結論は出ていません。ただそこに治療を望む人がいれば看護は存在するという事です。

生殖技術は、ますます進歩することでしょう。妊娠したい多くの人には助産婦が共に歩んでくれることを望んでいます。妊娠したい人の看護は助産婦が行うものです。

私達の意識の変革が必要ではないでしょうか。

日本助産学会ワークショップの開催について

日本助産学会理事長 近藤 潤子

学術振興委員長 竹内 美恵子

日本助産学会では、昭和63年度より助産学研究の推進を図るためのワークショップを行うこととなり、第1回、2回は、東京、第3回は神戸、去年は、日本助産学会学術集会開催予定地の小倉市において開催した。

本年は第5回を迎えることとなり、11月21日(土)下記の日程で、東北地区で開催する予定です。ワークショップ開催の意図は、ワークショップを通じて、実践の中での研究活動がより身近なものとなり、その成果が学術集会において発表されることを目指しています。ワークショップは参加者が希望の研究領域を選択し、研究課題の設定、研究方法の検証、データ収集の実際等につきコーディネータとともに学習を進めます。

日本助産学会が目指す助産研究の主な課題は、助産実践にとって手引として役立つであろう理論を発展させることにあります。そのためには、助産活動の中での多くの疑問や問題が研究課題へと発展していくことが最優先課題です。

会員の皆様には、今後ともワークショップへのご協力とご指導をお願いします。また、第5回のワークショップには、是非多数の方々にご参加くださるようご案内を申し上げます。

記

I 日時 平成4年11月21日(土) 午前9時00分～午後4時30分

II 会場 東北大学医療技術短期大学部

〒980 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1

☎022-272-6986

III 全体テーマ：助産学研究の実際

1. 基調講演：助産学研究について

日本助産学会理事長 聖路加看護大学教授 近藤 潤子

2. ワークショップ

研究領域

- (1) 自然分娩に関する研究
- (2) 危機状況にある母子および家族の援助に関する研究
- (3) 助産と計測研究
- (4) 助産診断に関する研究

IV 申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の方法でお申し込み下さい。

- (1) 郵送(現金書留)
- (2) ファクシミリ

会場の都合で、各研究領域(グループ)は10名程度で締切らせて頂きます。

参加費並びに昼食費は、申し込み書と共に現金書留にて送付下さい。

尚、資料代1,000円程度は、当日お支払いいただきます。

☆締切 11月14日

※ ご希望の研究領域は、第一希望、第二希望を研究No.で明記して下さい。

| No. | 研究領域(テーマ) | コーディネーター |
|-----|-----------------------------|---|
| 1 | 自然分娩に関する研究 | 聖路加看護大学 堀内 成子 |
| 2 | 危機状況にある母子および 家族の援助に関する研究 | 神戸大学看護部 新道 幸恵 京都府立医科大学看護専門学校助産婦科 宮中 文子 |
| 3 | 助産と計測研究 | 大阪府立看護短期大学 末原紀美代 |
| 4 | 助産診断に関する研究 | 徳島大学医療技術短期大学部 竹内美恵子 |

V 参加費について

参加費：5,000円(飲食物代等含む)・資料代1,000円程度

VI 昼食について

昼食をご希望の方はお弁当をご用意いたしますので、ご希望の有無をご記入下さい。
(1,000円程度)

☆ 申し込み(参加費等送付)先・お問い合わせ先

〒770 徳島市蔵本町3丁目18-15

徳島大学医療技術短期大学部専攻科 助産学特別専攻

竹内 美恵子

電話 0886-31-3111 内線 7290~7291 FAX0886-31-9612



第7回日本助産学会学術集会のご案内

第7回日本助産学会学術集会のメインテーマ「人間性の原点とかかわる助産婦」のもとに下記のとおりに開催いたします。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

会 長 浅生 慶子

1. 期 日：1993年3月7日(日) 9：30～16：30
2. 会 場：九州厚生年金会館 北九州市小倉北区大手町12-3
3. プログラム
 - * 会長講演 「助産婦の行う性教育」 10：00～10：40
 演 者 浅生 慶子 九州大学医療技術短期大学部
 座 長 藤田八千代 神奈川県立衛生短期大学
 - * 一般演題：口演、示説（ポスターセッション、ビデオセッション） 10：45～14：20
 （日本助産学会総会 12：30～13：25）
 - * シンポジウム 「助産と人間形成」 14：30～16：30
 座 長 竹内美恵子 徳島大学医療技術短期大学部専攻科
 緒方 妙子 聖マリア学院短期大学専攻科
 演 者 三浦清一郎 学校法人福原学園
 九州共立大学・九州女子大学副学長（交渉中）
 波平恵美子 九州芸術工科大学教授
 賀久 はつ むなかた助産院院長
 官崎 正夫 コスモサービス代表取締役社長
 篠田 恵美 エフコープ生協職員

4. 学術集会参加・懇親会参加・昼食希望について

1) 学術集会参加・懇親会参加

必要書類一式（学術集会ご案内・演題申込書・振替用紙各一部）同封します。
 参加申し込みをされた方は、学会時の討議を円滑にするために「講演集」を一ヶ月
 くらい前に送付する予定です。

学術集会参加費は7,000円です。（1993年1月20日以降は8,000円）

懇親会参加費は、6,000円です。参加を希望される方は下記に振り込んで下さい。

当日参加は会員以外の方の参加も歓迎いたします。

学術集会参加費・懇親会会費・昼食代振込先

郵便振替口座 福岡 6-80938

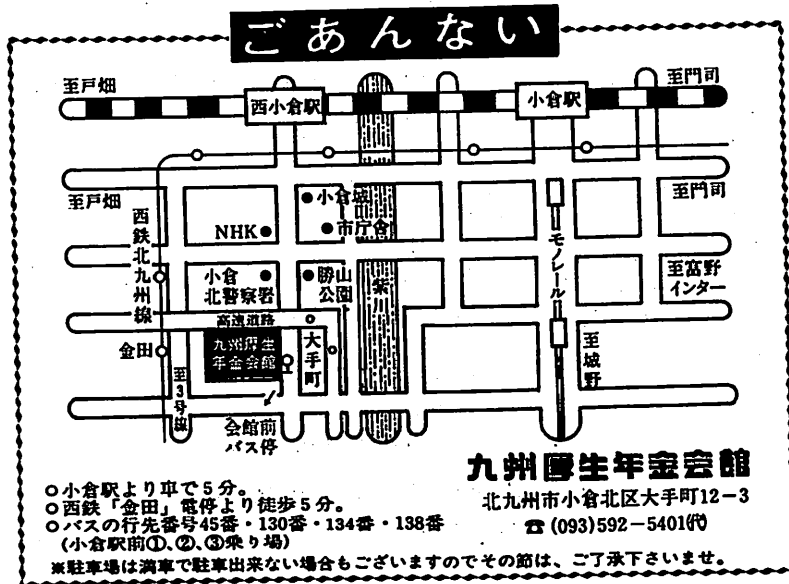
口座名称 第7回日本助産学会学術集会 宛

2) 昼食申し込み

昼食用弁当を当日販売いたします。ご希望の方は予め学会参加と同時に申し込んで下さい。

一食1,200円（お茶付）です。昼食券は事前にお送りします。

5. 会場は図をご参照下さい。



お知らせ

- 1) 厚生省より社団法人日本助産婦会に、平成4年5月に看護職員講習会委託費が交付された。交付の目的は地域保健体制において業務を推進する保健婦、助産婦業務の指導的役割を果せる人材及び訪問看護婦を養成するための、教育指導者に対して必要な知識と技術を修得させることである。これを受けて日本助産婦会では、平成4年度に「厚生省委託助産婦業務指導者講習会」を

東日本地区 (東京会場……平成4年11月11日～11月21日)

西日本地区 (大阪会場……平成5年2月8日～2月19日)

とに分けて開催する。

受講対象：実務経験が5年以上の助産婦

募集人員：各会場100名程度

参加費：22,000円

申込み問い合わせ先：〒102 東京都千代田区富士見1-8-21

日本助産婦会 TEL 03(3362)9910

FAX 03(3262)8933

- 2) 日本助産学会事務職員(臨時)のメンバー
事務所の移転に伴い、御不自由をおかけ致しましたが10月より下記の方々が、事務局の臨時職員として実務について下さっております。

月・金曜日 …… 安井 経子

火・木曜日 …… 森 明子

水 曜日 …… 山崎さゆり

時間は10:00～16:00です。

日本助産学会 第23回 ICM大会参加ツアーのお知らせ

第23回 ICM大会の参加を兼ねて、アメリカ西海岸の主にロスアンゼルスを中心にして、主体的な助産婦活動をしているパースセンターや病院等を見学する計画を立案しました。20名の団体として団長に瀬井房子姉を依頼する予定です。

1. 旅行日程：1993年5月4日(火)～5月15日(土)

2. 旅行代金：1人当り 379,000円

上記費用は20名以上を団体とした場合の1人の費用です。

1992年8月現在の航空運賃、並びに現地費用で算出しております。旅行実施時点において、人数、航空運賃、現地費用に変更が生じた場合は、旅行費用が修正されます。

3. 見学施設：

University of Southern California

1) Womens' Hospital

2) Comprehensive Prenatal Clinic

California Hospital (Private Hospital)

3) Nurse-Midwifery Service

4) Birth Center

4. 宿泊予定ホテル：

ロスアンゼルス ホリディインエアポート

バンフ バンフインターナショナルホテル

バンクーバー ホテルバンクーバー

1人部屋希望の場合は追加料金(1泊につき) ロスアンゼルス ¥ 7,000-

バンフ ¥ 7,000-

バンクーバー ¥ 18,000-

5. 利用予定航空会社：

日本航空、エアーカナダ

6. 旅行日程(案)

| 日次 | 月日 | 都市 | 現地時間 | 交通機関 | スケジュール | 食事 |
|----|---------|-------------------------------|--------------|-----------------|--------------------------------------|--------------------------|
| 1 | 5月4日(火) | 東京(成田)発 | 夕刻 | 航空機 | 空路、ロスアンゼルスへ着後、ホテルへ <ロスアンゼルス泊> | 夕：機内 朝：機内 昼： 夕： |
| 2 | 5月5日(水) | ロスアンゼルス | | 専用バス | 各地、病院等の見学 ロスアンゼルス市内観光等 | 朝：○ 昼： |
| 3 | 5月6日(木) | | | | <ロスアンゼルス泊> | 夕： |
| 4 | 5月7日(金) | ロスアンゼルス発 カルガリー着 バンフ | 午後 夕刻 | 航空機 専用バス | 空路、カルガリーへ着後、バンフへ <バンフ泊> | 朝：○ 昼： 夕： |

| 日次 | 月日 | 都市 | 現地時間 | 交通機関 | スケジュール | 食事 |
|-----------|----------|---------------------------|------|-------------|---|---------------------|
| 5 | 5月8日(土) | バンフ カルガリー 発 バンクーバー着 | | 専用バス 航空機 | バンフ市内観光 空路、バンクーバーへ 着後、ホテルへ 〈バンクーバー泊〉 | 朝： ◯ 昼： 夕： |
| 6 | 5月9日(日) | バンクーバー | | | ■大会参加■ 〈バンクーバー泊〉 | 朝： ◯ 昼： 夕： |
| 10 | 5月13日(木) | | | | | 夕： |
| 11 | 5月14日(金) | バンクーバー発 | 午後 | 専用バス 航空機 | 空港へ 空路、帰国の途へ 〈機中泊〉 | 朝： ◯ 昼： 夕： 機内 |
| 国際日付変更線通過 | | | | | | |
| 12 | 5月15日(土) | 東京(成田)着 | 夕刻 | | 着後、解散 | 朝： 機内 昼： 機内 |

※注意 出発時間、交通機関等に変更になることがあります。

7. 第23回ICM大会参加ツアーの申し込み

官制ハガキに氏名、住所、電話番号を明記して、日本助産学会事務局に申込み下さい。先着順(20名)に受付けます。尚、ICM大会の登録は各自行って下さい。規定の用紙はニュースレターNo.8号でお知らせ致したように、日本助産学会事務局にありますので、175円の郵券を添えて請求して下さい。

個人的に登録が御負担の場合には、10月31日までの登録期日が迫っておりますので、下記内容を記述して事務局に至急FAXで送って下さい。事務局で手続きをします。

- 氏名(ふりがな) 資格
- 勤務先(ふりがな)
- 住所(ふりがな)
- 電話番号、FAX番号
- ビサカード、又はマスターカードを持っている方は、その番号

登録料金

| 登録期間 | 1992年10月31日まで | 1992年11月1日～ 1993年3月1日 | 1993年3月1日より 当日受付を含む |
|------|---------------|--------------------------|------------------------|
| 全日登録 | 575カナダドル | 625カナダドル | 675カナダドル |
| 同伴者 | 100カナダドル | 100カナダドル | 100カナダドル |



ICMスポンサーミッドワイフ(国際基金)募金について

ICM本部ではカナダで開催される第23回ICM大会に、発展途上国助産婦の参加費用の援助として国際的な基金を集めております。日本に対しても加盟各団体に援助を依頼してきており、1人当たり4000カナダ\$(約408,000円)の予算です。日本助産学会でも10月17日の理事会で援助することが決議され、日本助産学会国際基金の口座を設けました。

口座番号：東京-9-710931 日本助産学会国際基金 1口-1,000円

何口でも結構ですので、会員の皆様からの基金をお待ち致しております。

ICMからのお知らせ

1993年ICMマリー・コブラン記念基金の発足

ICMマリー・コブラン基金の目的は、助産婦教育および業務に関して特別な必要があり、資金を得る機会に乏しい国々を、その国や地域に変化を起こすことのできる可能性のある助産婦に対して助成金や奨学金や賞金を提供したり、援助することである。主に低開発地域の助産婦を対象にしており、金額は臨床業務に対して2,000英ポンド、教育に2,000英ポンドである。

お詫びと訂正

平成4年3月発行の日本助産学会誌は第6巻第2号となっておりますが、第5巻第2号が正しいので訂正をお願いいたします。

また、ISSN(国際標準逐次刊行物番号)も、下から2桁目が6となっておりますが、5が正しく、0917-6357とご訂正頂きたいと存じます。

お詫びして訂正いたします。

第6回学術集会長 松本 八重子

事務局だより

- * ICM大会参加に合わせてアメリカの助産婦活動の見学のプログラムが立案されました。都合のつく方は御参加下さい。尚、ICMの登録は各自に行き行って戴きたいので、早目に事務局に用紙を請求して登録して下さい。10月以降は登録料金が高くなります。
- *事務局に月～金曜日迄、事務の方が入りました。よろしくお願ひします。
- *「第5回ワークショップ」「第7回日本助産学会」が開催されます。ふるって御参加下さい。
- *平成5年度の国際助産婦の日に向けての標語を募集しております。国内の助産婦活動についての標語を事務局までお寄せ下さい。